

## 岩手医科大学歯学会第28回例会抄録

日時：平成元年6月24日（土）午後1時30分

会場：岩手医科大学歯学部C棟6階第4講義室

演題1. ニフェジピン服用患者の口腔内所見について

○近江 浩昭, 中野 久土, 大阿久國賢  
横藤 英夫, 菅原 教修, 松丸健三郎  
上野 和之

岩手医科大学歯学部歯科保存学第二講座

薬剤が原因と考えられている歯周領域の病変としては、ジフェニル・ヒダントインによる、いわゆるダイランチン歯肉増殖症が知られているが、最近新たに、狭心症治療薬、血圧降下剤であるニフェジピンによる歯肉増殖が報告されている。今回、第二保存科で、ニフェジピンを服用しており歯肉増殖の所見が観察された症例に遭遇したので、その概要を報告した。

報告症例は4例で、服用しているニフェジピンの商品名はすべてアダラートであった。

症例1は50歳男性公務員で、歯肉の腫脹と歯肉からの出血の主訴で、平成元年5月20日に当科を受診した。40歳頃に高血圧の診断を受けていたが、62年の5月にニフェジピンの服用を開始した。4、5年前から歯肉の腫脹に気づいていたが、ニフェジピン服用開始後、歯肉がしだいに硬い感じになり、歯肉の肥大も強くなった、という問診結果であった。上下顎前歯部、上顎左側大臼歯部の歯肉の肥大が顕著であり、骨吸収の程度は、歯肉の肥大の程度と一致している傾向が認められた。

症例2は63歳男性で、歯肉からの出血が主訴で来院し、歯肉の肥大は下顎前歯部と上顎右側前歯部で認められた。

症例3は60歳女性で、歯肉の腫脹が気になるとの主訴で来院し、歯肉の肥大は上下顎前歯部に著名に認められた。

症例4は38歳女性で、上顎口蓋側の歯肉の腫脹が主訴で来院し、歯肉の肥大は主訴部と下顎前歯部に著名に認められた。

ニフェジピン由来と思われる歯肉増殖症の報告された症例数は、総数では58症例とまだ少なく、発表年も1984年以降である。

今後はこれら報告症例について、投与薬の変更も考慮しながら、治療を行いつつ臨床経過を長期にわたって観察するとともに、動物実験などを通して、ニフェジピンと歯肉増殖との関連について、その投与量と服用期間等も考慮し検討していきたいと考えている。

演題2. 試作ユージノール含有グラスアイオノマーセメントの基礎的性質

○佐々木 元, 小山田勇樹, 久保田 稔

岩手医科大学歯学部歯科保存学第一講座

演者らは、グラスアイオノマーセメントとユージノールの特製を生かした新しいセメントの開発を試みた。予備実験において、液状のユージノールをグラスアイオノマーセメントに均一に混入する事は不可能であった。そこで、ユージノールを水酸化ナトリウム水溶液に溶解させ、凍結乾燥して粉末とすることにより配合が可能となり、このセメントが臨床応用できるのではないかと感触を得た。本研究では、ユージノール凍結乾燥粉末の添加がグラスアイオノマーセメントの物性に与える影響を調べるとともにユージノールがどのような形で凍結乾燥粉末あるいは硬化体中に存在するかについて検討した。

### 【材料および方法】

グラスアイオノマーセメント粉末に重量比で1%~10%のユージノールを配合した試作セメントの硬化時間、操作時間、圧縮強さをISO規格7489に準じて測定した。また、本来のユージノール、凍結乾燥したユージノールナトリウム、これにポリアクリル酸を作用させた抽出物について赤外線吸収スペクトル分析を行った。

### 【結 果】

硬化時間は、ユージノール含有量の増加とともに遅延した。操作時間は、ユージノールの含有量の増